

日常生活という守るべきもの

—反原発デモに参加する人々の心性—

嵯峨 理紗

はじめに

2011年に発生した東日本大震災による原発事故以来、福島だけでなく東京各地で、今も反原発デモが行われている。日本では長らく「デモってなんとなくこわい、近寄りたくない」というイメージが染み付いていたが、原発事故、そして反原発デモが頻繁に行われるようになって以降そのイメージは薄れ、参加する人が一気に増えた。「6・11 脱原発 100万人アクション」として全国各地でひらかれたデモやイベントなどには、約7万9千人もの人が参加した¹⁾。

YouTubeなどのデモの動画やサイトを見ても分かる通り、今では気軽に誰もが参加できるようになり、芸能人や著名人も参加している。また福島原発事故以来デモが急増したこともあり、参加者の多さから安心して自分も、という者もいるだろう。ネットの普及により同志の者を見つけやすく、その安心感もあるかもしれない。デモについての情報も手に入れやすく、Twitterで個人有志の反原発デモの参加者を集めるアカウント@TwitNoNukesのフォロワー数などは、現在9000を超えている²⁾。

だが、これらの“参加しやすさ”だけがデモ参加者が増えた理由であろうか。人々がこれほどデモに参加するようになったのには、もっと深いわけがあるように思う。このデモの根底にあるものを明らかにしたい。

何を訴えるデモなのか

福島や原子力発電所のある地域で反原発デモが行われるのには納得できる者が多いであろう。なぜなら彼らは直接原発の被害を受け、自らの生命や生活に関わりのある者達だからだ。ではなぜ福島以外の東京やその他各地で反原発デモが行われ、そしてそこに参加する者が増えたのだろうか。

原発事故で今苦しんでいる方がいる

原子力関連施設で働き今命を削っている方がいる

原発から離れた場所で笑い今金を儲けてる方がいる

私は原発を絶対に許さない

今こそ国民は国に対して怒りをぶつけるべきです！！未来の子供たちを守るために。

これは、「さようなら原発 1000 万人アクション」という、脱原発デモを主催するサイト上での署名コメントである³⁾。寄せられたコメントの中にはこの他にも、福島の子作業員や子どもたちの被曝を心配するものや、未来の子どもたちのために！といったコメントが数多く見られた。また 2011 年 9 月 19 日に実際に行われた「さようなら原発集会」では、『子どもを守ろう！』というシュプレヒコールが行われ、「福島の子どもをモルモットにするな」というプラカードも掲げられた⁴⁾。

これらを見ると、一見、デモに参加する人々は福島の被災者・被曝者に対しての悲しみや、子どもたちの未来を危惧し、福島の人々を救おうとしているように思われる。が、本当にそうだろうか。デモに参加する人々は、本当に福島の人々や子どもという自分以外の「他人」のためにわざわざここまで声を上げているのだろうか。

もう一度デモの様子を詳しく見てみる。すると、あることに気付く。「福島の人々を救おう」「フクシマの子どもたちを守ろう」と福島について明確に旗を掲げているのは、実は福島の人々だけ、あるいはそれがほとんどなのである。その他はなにかというと、ほぼすべてが「脱原発」のみなのだ。また「子どもを守ろう」と言っている、「福島の子どもを守ろう」ではない。国民全体や、未来に関してのものばかりなのだ。

たとえば、上に挙げた「さよなら原発」の集会の様子をもう一度動画で見てみる。「福島を元通りにして欲しいです」「福島で苦しんでいる人たちに声を届けたい」と語っているのは、みな福島から来た「福島隊」の人々である。一方、その他の地域や福島県以外のところから来たと思われる人々は、「バイバイ原発」「原発はいらない！」の文字ばかりを掲げ、叫んでいる。また震災一ヶ月後に東京の高円寺で開催され、15000 人が参加した「素人の乱」でも、ほとんど福島の文字は見えず、せいぜい「No More フクシマ」くらいである。動画内のインタビューでも福島の人々に対する直接的なコメントは一切なかった⁵⁾。これらはどういうことを示しているのか。

罪悪なき罪悪感

東日本大震災及びそれに伴う福島原発の事故は、衝撃的な映像と共に国

民に少なからず影響を与え、被災者・被曝者に同情または感情移入する者が大勢いた。ネットの掲示板には被災者に共感しすぎ悩んでしまったため、助けを求め書き込みすらあった。下に挙げたのは、震災後 10 日ほど経ってから Yahoo!知恵袋という質問サイトに寄せられた問いかけである。奈良女子大学ではこの質問と応答に関して授業で取り上げられ、議論になった。

東北であった大地震でたくさんの被災者の方や亡くなられた方、安否不明の方の人数を見て、今まで当たり前のようにしていたことをするのに抵抗を感じるようになってしまいました。…外食に行こうかと思ったり、お菓子を食べようとしても『たくさんの被災者の方は満足に食べることもできないのに、私はこんなにおいしいものを食べて贅沢していいのだろうか』と…そんな私にまだできることはないかと勝手に焦って勝手に落ち込みます。…私にまだできることはあるのでしょうか？⁶⁾

この質問について柳澤有吾は「罪悪なき罪悪感」という言葉を用いて論じている。

個人や民族、あるいは国家であれ、特定の行為者が特定の他者に対して不当な仕打ちをした結果生じたというのではない、いわば原始的な不均等・不平等…それに対する割り切れなさ、もっと言えば『負債』の感覚が『罪悪なき罪悪感』と呼んだものにほかならない。⁷⁾

柳澤の言葉をかりれば、先の質問者は原発事故含む東北大地震に関して「罪悪なき罪悪感」をかなり感じているということだ。そして、こうした感覚を持った人が、自分に“できること”として実際にデモに参加していると一般的には思われているかもしれない。

が、実は全く異なった動機から参加している人がいると私は考えている。「罪悪なき罪悪感」と正反対に位置するものは「自分本位」である。罪悪なき罪悪感が自分のことに全く関係がなくとも感じてしまうものであるなら、その反対は周りにまったく影響されずまた気にしないというものであろう。デモに参加する人々は、この「自分本位」という考え方を持っている人も多そうである。それはどういうことか、説明していきたい。

デモに参加する理由

そもそもなぜ原発と直接関係のない人々がこれほど多くデモに参加し

ているのだろうか。

「これまではデモがあってもどこか他人事感じてましたが、反原発は自分の問題だと思って。」

「ほんの少しの人が富を独占するこの状況に、前々からイライラしてたんです。まわりは誰も何も言わないし。」

これは、東京近郊のデモに参加した女性のコメントである⁸⁾。またYouTubeなどのデモの動画から福島や原発のある地域以外の参加者の発言やプラカードを見ると、先にのべたように、やはり「原発いらない」「やっぱり原発ダメ絶対」などの文字が飛び交っている⁹⁾。

ではなぜ東京などの人々が原発に反対するのだろうか。それは福島で原発事故が発生し、自らもその危険に身をさらされたからである。つまり、自分の生活に被曝という危険が迫り、壊されかけようとしているということだ。そこで初めて人々はデモという行動を起こしているのである。

こう考えると、デモに参加している人々は福島県の人々のためではなく、自分、そして自分の日常生活を守るためという「自分本位」から声を上げていると考えることもできそうである。実際、福島県の人間からするとこれらのデモを批判する姿勢の者も見られる。たとえば『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』を書いた福島県いわき市出身の社会学者である開沼博は、デモについて以下のように述べている。

私は、都会で行われる脱原発を唱える社会運動について『それ、福島に届いているとでも思ってるんですか?』と常に問い続けてきました。…そこには震災後も変わらぬ暮らしを続けている人がいるし、かつての居住地を離れてもいつか戻りたいと言っている人がいる。また、移住しても、新しい生活をはじめするための手段を欲している人もいます。いつまでも『こんな悲劇がある』『こんな悪いやつがいる』とか言っても、何も進みません。¹⁰⁾

デモという、これまで忌避されてきた活動にこれだけ多くの人間が参加をするということ、人々がそうした一線を超えるためには、「罪悪なき罪悪感」だけでは説明がつかないのではないか。むしろこうした「自己本位」で参加する人の存在を仮定しないと、あれほど多くの普通の人々がデモに参加した理由は説明できないのである。

おわりに — 「日常生活」の重要性

死の可能性は常にわれわれのそばにあり、たとえ大震災ではなく、病氣

や交通事故で命を落としたとしても“死ぬ”という事実には変わりがない。テーマパークのジェットコースターだって事故が起きれば大惨事になるだろう。いつ人生が突然の終わりを迎えるかは誰にもわからない。逆を言えば、もし大震災が起こったとしてもそこで生き残り、再び普段通りの生活が始められればいいということもできるのだ。人生のほとんどを占めるのは「日常生活」である。どんな大きい危機であれ乗り越えて生活を始める。今の福島の復興を見ても分かる通り、それが最も重要なのだ。「日常生活」こそ人々が最も守ろうとするものであり、脅かされて最も困るものなのである。

こうした「日常生活」が脅かされる時、人々は「自己本位」で動き始める。原発事故によって命を落とす確率は一般人からすれば非常に低い。が、彼らはそこに目に見えない「被曝」という恐怖、すなわち「日常生活」を脅かす存在を見、敬遠しがちであったデモという行動を起こせたのではないだろうか。彼らの多くは「自己本位」でデモに参加しているのである。福島という他人のためにデモを起こせる人間がこれほどいるとは、私には思えないのである。

注

- 1) Wikipedia 「原子力発電所反対デモ」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/原子力発電所反対デモ>
- 2) Twitter 「反原発デモ@TwitNoNukes」 <https://twitter.com/twitnonukes>
- 3) 「さよなら原発 1000 万人アクション脱原発・持続可能で平和な社会を目指して」
<http://sayonara-nukes.org/shomei/comment-page-13/#comments>
- 4) YouTube 「脱原発デモに 6 万人が参加」
<http://www.youtube.com/watch?v=TjLRe2-71NA>
- 5) YouTube 「若者パワー炸裂！高円寺・反原発デモに 15000 人」
<https://www.youtube.com/watch?v=h711bVEM14Y>
- 6) 「Yahoo! 知恵袋」 http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1358330313
- 7) 柳澤有吾 『『共感の遠近法』と『罪悪なき罪悪感』 三野博司編著『大学の現場で震災を考える—文学部の試み』 2012 かもがわ出版 p19
- 8) TwitNoNukes 編著 『デモいこ！』 2011 河出書房新社 p26
- 9) YouTube 「【原発】全国 150 ヶ所で一斉に脱原発デモ (11/06/11)」

<http://www.youtube.com/watch?v=jVFdROW9ebQ>

YouTube 「2011. 4. 10 高円寺 脱原発デモ①」

<http://www.youtube.com/watch?v=gftmEDqGzkE>

10) 「ニコニコニュース:福島に届かぬ“原発反対”の声 社会学者・開沼博さん」『どうする?原発』インタビュー第5回

<http://news.nicovideo.jp/watch/nw345722>

最初はまったくデモについて書こうと思っていなかったのですが、一から調べなおすのが大変でした。私自身はデモに参加したことがないので、動画などでデモの様子を見たときビックリしました。そこらを歩いている普通の人たちが集まって声を上げるだけで、立派なデモになるんだなあと・・・集団の力は不思議だなと感じました。本や動画だけでなく、直接デモに参加している人にインタビューすることができなくて残念です。今は私もデモを少し敬遠している部分があると思うけれど、もし参加する側にまわったらどう感じるのだろうかと悩みました。

色んなことを調べるほどに疑問が湧き、脱線ばかりしてしまい反省しています…。当初の予定からも大きく外れ、これでいいのかな?と何度も自問自答しながら書きました。

嵯峨理紗

